

学校の特色を生かした総合的な探究の時間の試行

令和5年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：各校の特色を生かしたシビックプライドの醸成教育プログラム及びコーディネート機能に関する実践的研究

研究代表者：高等教育推進センター 渡部 芳栄

課題提案者：盛岡市

研究メンバー：小嶋康之・勝又洸樹（盛岡市），高瀬和実（高等教育推進センター）

技術キーワード：シビックプライド，コーディネート，探究活動

▼研究の背景・方法等

・盛岡市では、地域課題に取り組むプログラムを提供し、参加する高校生や大学生の地域学習を支援「盛岡まるごと学びの場プロジェクト」を令和3年度から実施

→自治体や地域の関与の程度が異なる上、そもそも地域とのつながりが少なかった

・総合的な探究の時間を利用して、生徒のシビックプライドとキャリア形成に資する教育プログラムを開発し、地域・行政とのコーディネート機能に着目しながら、各学校の特色を出しつつ、自律的に運営できるプログラムのあり方を実践的に研究

・研究協力校として岩手女子高等学校に、コーディネーターとして山崎智樹氏に依頼



「女子」をキーワードにした活躍する方々からの講話

▼研究の経過

フェーズ	回数
狙いの確認・情報収集とテーマ設定期	6回
調査実施と立案期	5回+自主調査
報告会期	7回
プロジェクトのまとめ期	5回

▼研究の成果

・「女子」という研究協力校の特色を生かしたプログラムの開発

・コーディネーターによるプロジェクトの全体調整及び外部との調整の実施

・「課題の発見」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という学習指導要領上の探究のサイクル（1サイクル）の実現



探究の「まとめ・表現」プロセスを意識した報告会

▼今後の課題

◎学校内部での調整機能—学校教育全体—総合的な探究の時間—プロジェクトという関係の再構築

➢ 学校教育の全体貫く目標の中で総合的な探究の時間の位置づけ（総合的な探究の時間は、単に教科の1つと捉えられない）

➢ 学校・学年全体で取り組むべきことの確認と学年・学級との協働について検討

➢ 総合的な探究の時間の目標とプロジェクトの目標の整合性なども、担当教員のみならず、学校教育全体で検討・共有

※研究に協力いただいた山崎智樹氏、岩手女子高校の生徒・教職員、関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。